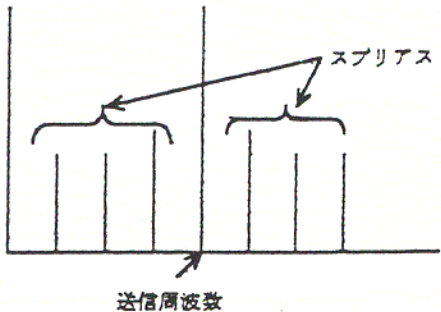


制定	年 月 日	アツデン技術標準	分類	
実施	年 月 日	33-508調整仕様 (32BT)	番号	

1. 送信出力の調整

- (1) φ3.5ジャックに付属のマイクをつなぎ、スペアナにアンテナを接続し、SW1をセンター(LED赤点灯)ONにする。
- (2) T2, 3, 4, 5及び、VC1, 2を調整し、送信周波数のレベルが最大となり、他のスプリアスが出来るだけ小さくなる様にする。(送信周波数に対し、-45dBm以上低くなること。)



2. 送信周波数の調整

- (1) φ3.5プラグのシールドとGND間に周波数カウンターを接続する。
- (2) T1を調整し、送信周波数±2KHz以内に合せる。

3. 最大周波数偏移の調整

- (1) SW1を一番左(LED緑点灯)にし、φ3.5ジャックにオシレーター、バルボル、φ3.5プラグのシールドとGND間に直検を接続し、直検のAF OUTPUTへオシロスコープを接続する。又VR1を最大(時計方向)にする。
- (2) オシレーターの周波数を1KHz、出力を-22dBmにセットしてVR2を調整し、直検のDEVIATIONが±20KHzとなる様に合せる。

4. 変調感度の調整

3. (2)の状態、直検のDEVIATIONが±15KHzとなる様に、VR1を調整する。

5. 送信周波数の確認

再びφ3.5プラグのシールドとGND間に周波数カウンターをつなぎ、送信周波数が希望周波数±2KHzに入っている事を確認する。

AZDEN CORPORATION
 FCC ID: BZB32BTH
 EXHIBIT #: 9A

改定記事	:	:				
	:	:				
	:	:				
	:	:				
	:	:				
配布先			検印		検印	
					検印	作成

制定	年 月 日	アツデン技術標準	分類	
実施	年 月 日	33-508調整仕様 (32BT)	番号	

6. 周波数特性の確認

オシレーターの出力レベルを4の状態より20dBm下げ、1KHz時の直検の出力レベルを確認し、オシレーターの周波数を100Hzにして、1KHz時の出力から $-2.5 \pm 1\text{dB}$ 、次にオシレーターの周波数を10KHzにして、1KHz時の出力から $+4.5 \pm 1\text{dB}$ となる事を確認する。

7. 減電圧の確認

電源電圧を5Vに下げ、LEDが点灯しない事を確認する。

(製品規格中のdBs表示は、任意の負荷によるdBmの為、バルボルのdBm表示と同じです。)

AZDEN CORPORATION
FCC ID: BZB32BTH
EXHIBIT #: 9B